

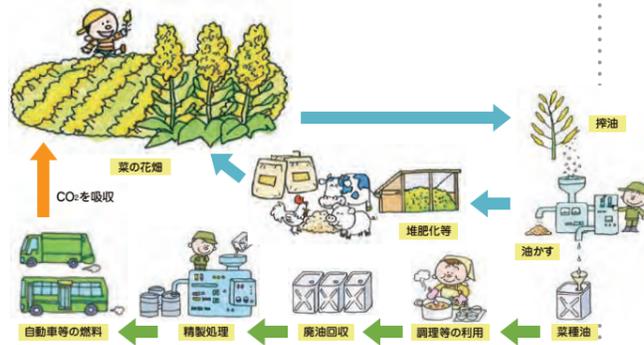
3. 菜の花を通じた環境学習

(1) 目的

本市では、平成 19 年度から、子どもから大人まで参加できるエネルギー循環、地球温暖化を学ぶ取組として「菜の花の育成等を通じた環境学習」を推進しています。

これは、菜の花を栽培し、搾油し、食用油として利用した後、廃食油を回収し、BDF（バイオディーゼル燃料）などにリサイクルし、再び活用する、地域の中で資源をつなぎ、生かす取組です。

◆菜の花を通じたエネルギー循環学習



(2) 成果 (平成 24 年度)

ア. 菜の花プロジェクト in 河内温泉

平成 24 年 6 月 2 日 菜種の収穫・搾油体験・セミナーの実施：89 名（大人 75 名、小人 14 名）参加

イ. 菜の花を活用した環境学習事業費補助

平成 24 年度事業分
4 団体 3,060 ㎡

ウ. 種子配布 (幼・保・小・中学校、各種イベント)

10,000 袋 (計 28kg) を市民に無料配布

エ. 種子回収 (区役所、環境ミュージアム等で回収)

約 40kg の種子を回収

(3) 今後の取組

本市では、補助金の交付（平成 25 年度以降は、グリーンフロンティア助成に統合）や種子の配布、搾油機の貸出しなどの支援を行い、資源循環型の社会を築く取組として、菜の花で学ぶ環境教育を推進していきます。



北九州グリーンヘルパーの会
(小倉南区徳吉南)



八枝まちづくり協議会
(八幡西区北筑)

第 2 節 優れた環境人財の育成

本市では、「まちづくりは人づくり」とし、市民は最も重要な財産であると考え、「人財」育成の取組を進めてきました。とりわけ、環境問題の解決には、一人ひとりが環境との関わりを理解し、具体的な行動に結びつけることが重要であることから、環境教育・環境学習に積極的に取り組んできました。一方で、平成 23 年 6 月に「環境教育等促進法」において、体験学習に重点を置いた取組から幅広い実践的人材づくりへと取組を発展させるため、規定が充実されました。今後、この法律の趣旨を踏まえ、総合学習システム「北九州環境みらい学習システム」を中心に、あらゆる世代に対して環境学習・体験・協働の充実を図るとともに、専門的かつ実践的な知見を身につけた人財を育成します。

1. 北九州環境みらい学習システムの推進

(1) 目的

本市の恵まれた自然や充実した環境関連施設等を結びつけ、多世代の市民が意欲や能力に応じて、エコツアーなどまち全体で楽しく環境学習が行える仕組みづくりを行い、「環境未来都市」推進の原動力となる「市民環境力」の向上を目指します。

(2) これまでの取組

ア. エコツアーガイド等人材育成

バスガイドや観光ボランティアガイドなどを対象に、市の環境施策の座学や環境学習施設等の実地研修を実施し、環境ガイドを育成しました。また、海外からの視察者に本市の強みである環境の取組を正確に伝え、発信できる、本市の環境に精通した環境通訳の育成に取り組みました。

イ. 環境学習 (エコ) ツアーの実施

多世代の市民が参加し、本市の環境について楽しく学びながら、環境に関する知識や行動力を身に付けることができるように、市内の環境スポットを周遊するエコツアーをモデル的に実施しました。また、民間企業などによる地域団体や一般市民向けオリジナルツアーに実施協力し、約 5,600 人の参加がありました。



親子まちなかツアー



女性向けエコツアー写真

ウ. 情報発信

環境情報の発信拠点として、集客性の高い小倉駅の「総合観光案内所」内に、本市の環境施策や関連施設等を紹介するパンフレットなどを取り揃えた「環境情報コーナー」を設置し、情報提供を行っています。また、「環境みらい学習システムホームページ (http://www.eco-learning.jp/)」において、環境関連施設情報や最新のイベント等の情報を広く、分かりやすく発信しています。

エ. エコツアーガイドブック等広報物の発行

テーマごとのエコツアーガイドブック「公害克服編」・「自然環境編」・「環境産業編」・「環境まちづくり編」に続き、現在環境の取組が進んでいる地区「東田編」「若松編」(日・英・中・韓各言語版) を新たに作成しました。



(3) 今後の取組

今後は、各施設、活動団体等における環境学習プログラムの集約・ネットワーク化をはじめとし、総合的な情報発信を行います。また、システムを支える人材育成のための仕組みづくりに向けた準備を進めます。

2. 環境ミュージアムを拠点とした環境学習の推進

環境学習・活動交流の総合拠点である「北九州市環境ミュージアム」では、北九州市の公害克服の歴史やさまざまな地球環境問題、それを防止するための取組などを展示しており、これらをガイドが詳しく紹介しています。市民ボランティアである環境学習サポーターによる工作・実験・クイズなどの体験型プログラムも提供しています。また「感じて」「学べる」21世紀環境共生型モデル住宅「北九州エコハウス」も平成22年4月に併設し、環境に優しい住まいづくりの情報発信も行っています。

館内には情報ライブラリを設置し、書籍やビデオなどを揃え、パネルや実験機器などとともに貸出も行っており、学校の授業など各種の環境教育に活用されています。

平成23年度には展示内容をリニューアル、また、10月には、46億年の地球の歴史を460mの距離に置き換え、その道を歩きながら地球環境の大切さを学ぶプログラム「北九州 地球の道」を開設しました。かけがえのない地球を守るために自らの行動を変革することを目指しています。

平成24年度の利用者数は、128,464人でした。

(環境ミュージアムHPアドレス <http://eco-museum.com/>)



環境ミュージアム

3. 北九州子どもエコクラブ活動の推進

「子どもエコクラブ」とは、子どもたちが自主的に環境に関する学習や活動を行うクラブです。平成24年度は、環境活動に関する教材や情報の提供、交流と学習を兼ねた宿泊交流会を実施しました。

平成24年度は、20クラブ、626名の幼児から高校生までが活動し、市内の多くの子どもたちの自主的な環境活動が促進されました。



平成24年度夏の交流会の様子

4. 環境教育副読本による環境学習の推進

幼児から中学生までそれぞれの発達段階に応じた環境教育副読本を平成12年度から作成し、平成14年度に幼児用、小学校低学年・中学年・高学年用及び中学生用の5段階シリーズ化が完成しました。平成15年度は、小学生用副読本の教師用指導書3種類と、幼児用の大型環境絵本を作成、平成16年度は、幼児用絵本の点字本と音声CDセットを作成し、さらに小学校低学年用副読本を大きく改訂しました。

平成17年度は、小学校高学年用の別冊資料として、環境学習サポーターが語り継ぐ公害克服の体験紙芝居「青い空を見上げて」を発行しました。平成18年度は、本市のごみ収集制度について、全ての学年で学習できる内容に改訂し、教育現場で総合的な学習などの教材に積極的に活用されています。

幼児用	コスモスほしからきたペルル(環境絵本) (汎用版及び大型判、点字本と音声CDセット)		
小学生用	低学年	地球はみんなのおともだち	教師用指導書
	中学年	もっと知りたいみんなの地球	
	高学年	みんなで守ろうきれいな地球 別冊公害克服編「青い空を見上げて」	
中学生用	未来につなごうゆたかな地球		

平成21年度には、環境教育ワークブック「みどりのノート」(小学校低学年・中学年・高学年用の3種類と教師用指導書)の製作に取り組み、平成22年春に市内小学校全児童に配布し、それ以降も毎年配布しています。

北九州市の事例を用いて低炭素社会のよさに気づき、身近なところからエコライフに取り組んでみたいと思えるような具体的な例や、太陽光発電などの新エネルギーにも焦点をあてています。各学年の学習に関連させながら、各教科や総合的な学習の時間の中で、児童が自分の思いを書き込みながら幅広く活用することを目的としています。

5. 環境修学旅行の取組

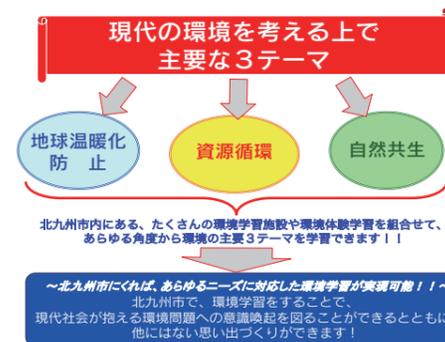
(1) 環境修学旅行とは？

北九州市は、本市の観光振興を一層推進していくため、国内外から高い評価を得ている本市の「環境」を、新たな観光素材とし、本市に集積している環境の施設や技術などと、観光の観点を、有効に組み合わせ「環境修学旅行」という本市ならではの修学旅行を平成22年度より開始しました。

平成24年度は、九州・関西エリアから小学校・中学校・高等学校の、合計21校1,545人が同修学旅行で本市を訪れました。

(2) 環境修学旅行の特徴

環境修学旅行の特徴は、現在の環境問題解決の主要3テーマである「地球温暖化防止」「資源循環」「自然共生」を切り口に、環境関連施設や企業の見学に加え、ユニークな体験学習やエコ弁当、エコ土産などを盛り込み、楽しみながら環境を学べる修学旅行です。



(3) 環境に配慮した企業の見学

北九州市には環境に配慮した製品づくりを行う様々な企業があります。工場見学などを通して企業の環境への取組を学ぶことができます。



TOTO



九州製紙



シャボン玉石けん

(4) 環境修学旅行のユニークな体験学習

環境修学旅行の特徴のひとつである体験学習は、本市でユニークな環境への取組を行っている企業や大学、研究者の方々の協力を得ながら行っています。

■産業廃棄物処分場跡地での植樹

北九州市は、平成20年から34年までの15年間で市内に新たに100万本の緑を増やそうとする「環境首都100万本植樹プロジェクト」を行っています。

同プロジェクトの一環として、若松区の響灘海岸の廃棄物処分場跡地において、市内企業によりどんぐりなどを植樹する緑化活動が行われています。



この植樹には、カンガルーの糞と、トマトの茎や葉を混ぜ合わせて作られた肥料が使われるという全国的にも大変ユニークな取組が行われています。

修学旅行生は、植樹をすることにより、市のプロジェクトに参画ができるとともに地球温暖化防止や資源循環の大切さを学ぶことができます。

■生ごみコンポストづくり

北九州市は、環境国際協力にも力を入れています。その中のひとつで、ごみ問題に悩まされている東南アジア諸国において、生ごみを堆肥に生まれ変わらせるコンポストづくりを伝授している研究者がいます。

この研究者の方が直接、生ごみコンポストづくりをレクチャーし、ごみの減量化や資源化について学びます。



(5) 今後の取組

ひとりでも多くの方に環境修学旅行を経験してもらうことで、本市の環境への取り組みが広く情報発信され、次世代を担う子どもたちの環境意識の醸成が図られることが期待できます。

北九州市に環境修学旅行で訪れた方々が、楽しみながら環境を学んでいただけるよう、今後一層の内容の充実や受入体制の強化を行っていきたく考えています。

6. 環境学習サポーター

環境学習サポーターは、環境ミュージアムを拠点として、館内外の市内全域で、市民の環境意識を高め、環境学習・環境活動の活性化を図るために、これらをサポートする市民ボランティアです。環境に関する知識や環境学習の指導者としての技術習得のための研修を毎月実施しています。

これまで、「燃料電池実験」「エコ工作」といった環境科学実験や工作、「地球温暖化三択クイズ」「エコラベルピンゴ」といったクイズなど、様々なテーマを種々の体験型形式で活動を行い、市民の環境問題に対する意識向上の手助けをしています。また、これらの環境教育プログラムを、小学校や市民センターなどでも「出張環境ミュージアム」ということで企画し、環境学習や活動のサポートをしています。その他にも、ごみ処理工場や浄化センターなどのガイドを行うなど北九州市全域で幅広く活躍し、市民の環境保全の意識を高め、環境学習・活動を推進しています。

平成 24 年度の環境学習サポーター数は 68 名で、活動日数は 309 日、延べ活動人数は 2,488 人でした。



7. 「持続可能な開発のための教育 (ESD)」の推進

(1) ESD とは？

持続可能な開発のための教育 = 「Education for Sustainable Development」の略称です。2002 (平成 14) 年の「持続可能な開発に関する世界首脳会議 (ヨハネスブルグ・サミット)」で「国連持続可能な開発のための教育の 10 年」を日本が提案し、2005 (平成 17) 年から国連など世界規模の取組が始まりました。

一方近年、地域の課題は多様な問題が複雑に絡み合っており、少人数のみ、単一分野のみの取組では、解決が難しいのが実情です。様々な分野の多くの方々、「つながり、結びつき、一緒に考え、取り組む」ことが「課題解決への鍵」となります。ESD とは、地球や日本の課題を、最も実感できる身近な地域からの取組で乗り越えていく、すなわち多様な人々が地域等のさまざまな課題に気づき、社会のあり方を変えていく人財を育む学習・教育です。

ESD 活動の対象は、学校教育だけでなく、社会教育や企業の人材育成など、持続可能な社会づくりに向けた人づくりにつながる全ての活動が該当し、分野も環境、人権、福祉、ジェンダー、多文化共生など多岐にわたります。

(2) 本市が目指す ESD

「世界の環境首都」「環境未来都市」の実現を目指す本市の目標は「持続可能な社会」を構築することであり、「北九州 ESD」はまさに、それを担う人づくりの活動です。本市では、市民・NPO、学校、企業、行政等からなる「北九州 ESD 協議会」を中心に、ESD 活動を推進しています。その活動において、「感じる」「学ぶ」「行動する」「つながる」「広がる」「共有する」ことができる ESD の視点を持った人財を育成するため、参加体験型の実践学習を重視し、市民への啓発を進めています。



(3) 国連大学・地域拠点 (RCE) の認定

国連大学が全世界で進めている ESD 推進のための「地域拠点 (Regional Centres of Expertise : RCE)」づくりにおいて、平成 18 年に「RCE 北九州」として、世界 22 地域 (平成 25 年 4 月時点 117 地域) とともに認定されました。

これを通じ、国内外の RCE との連携強化を図るとともに、本市の ESD 活動の普及を進めています。

(4) これまでの取組

当初、44 団体で発足した北九州 ESD 協議会は、現在では大学や企業をはじめ、環境活動や多文化共生などを実践する 75 団体 (平成 25 年 7 月現在) まで輪を広げ、各専門分野を活かした活動やパートナーシップによる取組を進めています。

(平成 24 年度の主な活動)

- NPO との協働による市民センター館長等への ESD コーディネーター育成研修「ESD 未来創造セミナー」の実施
- 市内 10 大学が連携し、ESD 推進のモデルとなる地域拠点「北九州まなびと ESD ステーション」を開設
- 九州各地で ESD 活動に取り組んでいる団体との連携強化を目指した「九州 ESD 推進ネットワーク会議」の設立
- 教育委員会との連携を図り、ユネスコスクールの登録及び生涯学習の一つとしての取組を推進
- 世界会議への参加等を通じた、国内外の RCE との交流・ネットワーク構築



ESD 未来創造セミナー



まなびと ESD ステーション

(5) 今後の取組

- ESD 活動のさらなる理解及び普及促進を図るため、
- 地域における ESD 活動普及の鍵となるコーディネーター育成の継続と実践
 - 様々な活動団体の相互連携による活動の推進・展開
 - 分かりやすく、実践につながる ESD 普及啓発などの取組を強化します。

また、「アジア太平洋 RCE 地域会議」の本市での開催 (平成 25 年 10 月) を通じ、これまでの取組をはじめ、「世界

の環境首都」「環境未来都市」の原動力である市民環境力を国内外に発信するなど、本市が先進的な環境教育・開発教育の拠点となることを目指します。

8. 北九州市環境首都検定の実施

(1) 目的

本市では、市民環境力の強化を図るため、平成 20 年度に「北九州市環境首都検定」を創設しました。

これは、「北九州市環境基本計画」(平成 19 年 10 月策定) の戦略プロジェクト並びに「北九州市環境モデル都市行動計画」の取組の一つです。

北九州市独自の環境分野の検定を実施することによって、環境学習の機会を増やし、環境意識のレベルアップや環境に関心を持つ市民の裾野を広げます。

また、本市の環境首都への取組における認知度を高めるとともに、エコライフの取組を身近に感じることができるきっかけをつくります。

平成 24 年度は、公式テキストの内容を一部追加し、小学生向けの「ジュニア編」と中学生以上向けの「一般編」「上級編」の 3 部門で実施しました。平成 23 年度に比べ受検者が 145 人増加し、ジュニア編が 508 人増えました。70 点以上取得者には合格証を交付し、100 点取得者などに対しては表彰式で賞状を交付しました。

(2) 検定の概要 (平成 24 年度)

- [受検資格] なし
- [受検料] 無料
- [出題形式] ジュニア編：問題数 25 問 (4 択形式)
一般編：問題数 40 問 (4 択形式)
上級編：問題数 50 問 (4 択形式)
- [合否判定] 70 点以上合格
- [主な出題範囲]
- ジュニア編：北九州市小学校高学年用環境教育副読本「みんなで守ろう!! きれいな地球」
- 一般編：公式テキスト 増補版
- [学習ツール]
- 公式テキスト 増補版、過去問題



検定実施会場



平成 24 年度 表彰式



(3) 実施結果 (平成 24 年度)

[実施日時]
平成 24 年 12 月 16 日 (日) 10:00 ~ 11:30
[会 場]
西日本総合展示場、九州国際大学
[実施結果]

	ジュニア編	一般編	上級編	計
受検者数	594人	1,296人	424人	2,024人 (内一般・上級 ダブル受験290人)
平均年齢	13.1歳	36.0歳	41.0歳	-
平均点	64.2点	68.3点	58.0点	65.3点
合格者数 (70点以上)	219人	648人	72人	939人
合格率	36.9%	50.0%	17.0%	46.4%
100 点	1人	0人	0人	1人

- [特 徴]
- ① 家族、学校、企業、地域団体など様々なグループで受検 (92 団体、821 人)
 - ② 一堂に会した受検 (同じ教室での世代間交流)
 - ③ 下関市や周辺地域のほか、市外からも144人 (7%) が受検



公式テキスト
(2012 増補版)

(4) 今後の取組

平成 25 年度は、12 月 15 日 (日) に実施します。受検者の皆さんからいただいたアンケートの結果も参考にしながら、より楽しく、より役立つ北九州市らしい検定制度を確立し、環境への意識の向上、ライフスタイルの変革につなげていくことを目指します。

また、企業の CSR 活動に役立てていただくなど様々な場での活用の拡大を図っていきます。

第 3 節 環境情報の共有と発信

本市には、地域コミュニティ活動や自然環境保全活動などを通じ、様々な環境情報が蓄積され、ネットワークづくりも進められています。環境への取組を更に進めていくためには、あらゆる主体が環境に関する多様な情報を共有し、そこから新たな情報や行動を生み出し、発信していくための基盤づくりを進めていく必要があります。

今後、周知方法の更なる工夫を図りながら、様々な媒体・機会を活用した情報発信に取り組むとともに、シンポジウムやイベントで対話するなど、双方向でのコミュニケーションの促進を進めていきます。

1. 北九州エコライフステージ

(1) 目的

北九州エコライフステージは、「世界の環境首都」を目指し、毎年市民団体や事業者などで構成する実行委員会を中心に、エコライフの浸透を目指し様々な環境活動に取り組むものです。

(2) 事業内容

平成 14 年度に開始し、11 周年の開催を迎えた平成 24 年度は、約 142 万 4 千人の市民が参画し、191 行事を実施しました。その主な事業は以下のとおりです。

ア. シンボル事業「エコライフステージ 2012」

開催日：平成 24 年 10 月 13 日 (土)・14 日 (日)
会 場：北九州市役所周辺広場ほか
テーマ：あしたのための、話をしよう～ 10 年後の日本をイメージして～

内 容

- それぞれの出展のテーマに合わせて、8 つのテーマゾーンを設置
- 環境活動に取り組む団体による有機野菜等を使った食のコーナー、環境商品の展示・販売、リサイクル工作教室など、日常生活に密着し、環境に配慮したライフスタイルを提案する出展
- マスメディアの参画によるステージイベント、番組の制作・放映



シンボル事業「エコライフステージ 2012」

- CO₂ の削減が実感できる、環境に配慮した会場運営の実施 (デポジット制によるリターナブル食器の利用、バイオディーゼル燃料による発電等)
- 小型電子機器等のリサイクル資源の回収
- 北九州市立大学の学生の企画・運営による「エコスタイル café」の実施
- 東日本大震災復興支援企画の実施

イ. 地域・テーマ別事業

通年事業
会 場：市内一円
内 容
市民団体、企業、学校等の様々な環境活動を行っている団体を紹介することで、市民団体・企業間の相互交流による環境活動の拡大、ネットワークの広がりが生まれました。(190 事業)

(3) 成果

エコライフステージは、参加者が年々増加しており、市民に環境の環 (わ) が広がっています。
シンボル事業「エコライフステージ 2012」では、87 団体、15 万 6 千人の市民が参加し、市民団体・企業・学校等との様々な交流が行われました。また、日本青年会議所全国大会「地域活性化からいち」など周辺の同時開催事業と連携し、環境活動の広がりに貢献しました。

また、平成 21 年度から実施している「エコライフステージ 3 つの約束」では、ごみを出さない工夫、電気の使用を最大限に抑えたイベント運営、地産地消の推進などを行うことで、主催者・出展者・来場者が一丸となって環境に配慮した会場づくりに取り組みました。

(4) 今後の取組

インターネットを活用した情報発信力のさらなる強化・拡大を図るため、平成 25 年 4 月、シンボル事業のメインサイト「北九州エコライフステージ」に、旧環境ポータルサイト「エコライフネット」を統合し、よりタイムリー